

[演題 7]

家屋におけるクロゴキブリの局所分布検出例，特にシバンムシ類との比較

○辻 英明（環境生物研究会），菅野格朗（環境機器株式会社）

Searching micro locations of the smoky brown cockroach by smaller traps,  
comparing with the Anobiidae beetles

○Hideakira TSUJI (KSK Institute for environmental biology) and  
Kakuro KANNO (SEMCO Co., Ltd.)

クロゴキブリは，ヤマトゴキブリと同様に，野外の潜伏場所での越冬に適した森林昆虫とみられる。夏には森林内での活動が活発で，特に新成虫や大型幼虫の夜間活動が目立つ。日没後に一斉に潜伏場所から外出して移動し，摂食，交配を行う新成虫は特に目立つ存在で，その際に飛翔などを含めて，近傍家屋への侵入の頻度が高まるとみられる。

2016年5月～9月に，屋外からの侵入を念頭において，一住宅家屋内の12箇所に小型の餌付き粘着トラップを設置し捕獲状況を観察したところ，野外で成虫や大型個体の活動が盛んな7月末から8月に捕獲や確認がみられた。設置場所の戸口内側，流し台下，レンジ台下，東窓下床，南窓下床，洗濯機横，バスルーム床，バスルーム小窓，推薦トイレ床奥，事務室から和室への入り口，和室の奥，洗面台下のうち，戸口内部（成虫1，大型幼虫2）と洗面台下（成虫2，大型幼虫1）の2箇所で3匹ずつ，流し台下で成虫1匹が検出された。戸口はドアの下の隙間，洗面台の下と流し台の下は排水パイプと床との間の隙間が侵入経路と推定される場所である。微小な1齢幼虫1匹がトイレの床で得られたが，小窓のレール上の隙間，換気扇の隙間，水洗便器の水中経由，未発見の天井や壁の隙間，別室経由などが考えられるが断定できない。

興味あることに，ゴキブリの大型個体が検出された3箇所は，同時にフェロモントラップと餌つぎ粘着ラップで調査したタバコシバンムシとジンサンシバンムシが多く捕獲された場所（辻・菅野，2016），と一致している。この家屋にはタバコシバンムシも屋外から侵入することが判っており，ドアや窓の隙間を経由すると考えられている（辻ら，2015）。シバンムシ類は東窓下と南窓下でも検出されたが，飛翔する微小昆虫なので，これは窓枠の車とレールの隙間から侵入したものと推定される。